

課題番号2

課題名	<b>重点課題4 地産地消を支える農業者の育成と生産の振興</b> えだまめ・若ごぼうの高品質化と安定供給の取組	
対象: 若ごぼう・えだまめ市場出荷者 25名程度	計画期間: H29～33	事務所名: 中部農と緑の総合事務所
普及課題	活動方法	活動成果
①土壌環境要因の特定(えだまめ) ②土壌改良による収量増加(えだまめ) ③生理障害対策技術の普及(若ごぼう)	①現地調査 ②現地実証 ③講習会・展示ほ	①低収量要因としてK、Mgの不足のほか深耕の必要性 ②木炭投入による土壌改良を行い、無処理区比で13%の収量増 ③生理障害削減に効果が確認できた被覆資材の導入 6戸

総合評価 (コメント)
<p><b>A : 4名      B : 3名</b></p> <p>■大阪を代表する農産物の高品質・安定生産体系の確立に取り組み、今後が期待される技術向上活動であると判断できる。</p> <p>■コスト引き下げは改善の余地あり。経年調査をして単年度の気候変化の偏りを取り除くべき。</p> <p>■出荷調整作業が省力化されるという観点で評価をしても良いのではないか。</p> <p>■研究機関との分析等、地道なデータ収集を行っており、今後の生産にとって指標となり得るので大変良かった。</p> <p>■産地維持のためには担い手の確保が必須。後継者対策と一体的に実施していただきたい。また、省力化についても課題解決されるよう期待している。</p>

評価 A: おおむね適切である。 B: 部分的に検討が必要である。 C: 見直しが必要である。

普及指導計画への反映状況等
<p>■えだまめについては、過去2年間延べ43ほ場の調査結果から、作土を深くしたり木炭を活用した土壌改良の実証ほ場を拡大して、JAとの連携により産地としての出荷量増加を進める。</p> <p>■若ごぼう生理障害対策のコストについては、生理障害発生率の影響で変動するため、引き続き、現地での技術展示を継続するとともに、より安価な資材での比較調査も行う。</p> <p>■生理障害の発生率が減少することで、出荷調製作業の省力化につながることから、講習会等で周知していく。</p> <p>■後継者対策については、農家の収益を他産業並みに向上させることが、後継者の確保につながると思われることから、生産性の改善による収益向上を支援していく。</p> <p>■就農している後継者に対しては、地元の青年農業者クラブへの参加を働きかけ、定例会等を通じて、栽培技術力の向上等を支援していく。</p> <p>■特に省力化の必要性が高いと考えられる若ごぼうの収穫については、オペレーターを育成して作業委託する等の手段も有効と考えられることから、JAでのオペレーター育成等について協議する。</p>